

GUNMA  
HOUSING  
AWARD  
2019

優良賞

# 岩押の家

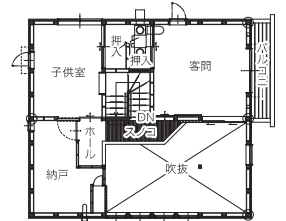
〈いわおしのいえ〉

設計者 株式会社 小林建設 一級建築設計事務所

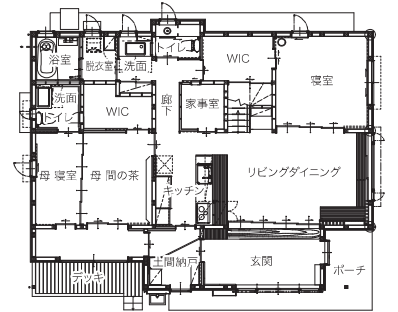
施工者 株式会社 小林建設



平面図



2F



1F

## CONCEPT

### 設計主旨

高崎市都市計画道路の代替地での新築。高崎駅に近い市街地なため、東・南の道路からの見え方・視線の隠し方を意識して設計しました。

90代の母、60代前後のご夫婦、20代の娘という3世代住宅なため、個々のプライバシーが守られつつ家族がつながることを心掛けました。

LDKは、家族が集まりやすいよう配置し、平屋的な吹き抜け空間を作ることで1階と2階のつながりや、直接顔は見えないけど気配を感じれる空間にしました。南側には玄関を兼ねた土間サンルームを設けています。冬場には開口部から取り入れられた太陽熱が石に蓄熱され、日没後に暖房効果をもたらします。また、薪ストーブを土間空間に設置したことで蓄熱効果と建物全体に暖かさが循環し「引き戸を開けておいて暖かい」「土間空間でお茶を楽しみながら過ごすことができる空間」とすることで、近所の人やお友達が気軽に立ち寄りやすい明るい土間空間になりました。対面式のキッチンには、土間玄関にお客さんが来ている際に勝手口から入れる動線があり、買い物袋を持ったままお客様と会わないよう工夫しました。多世帯の建物は、朝のラッシュ時に動線がバッティングしてしまいます。このバッティングが起こりにくいように、建物内を回遊できる動線にしました。90代の母

の部屋には専用トイレを隣接させ、移動距離を短くしました。また、夫婦寝室からトイレまでの動線をリビングを通らずに行けるようにしました。また、デイサービスや通院など外の出入りが楽にできる場所に駐車スペースを1台分配置し他3台も含めてプライバシーを守りつつ開放的な外構計画にしました。この地域の春・夏・秋の卓越風向は南西です。土間玄関の入口や土間サッシ、リビングのカウンタースペースの窓から風が入り、北側の水廻りスペースの窓から抜ける計画にしています。リビングは、暑くなった空気が2階に上り排熱できる計画にしています。この通風計画を実現するために、建物内居室全ての開口部を引戸としました。2枚以上重ねる引き戸は全て『引き込み戸』とし全開口できます。母・子は個人の部屋でプライベート空間を持っています。ご主人は、リビングカウンタースペースでパソコンも使える書斎コーナーにし、奥様はキッチンと隣接した家事室でマシンやプライベート空間として使用することができます。多世帯の家に部屋数がないと20代の子供が結婚し、住まいを考える際に本当は同居したいのに部屋がないということが起こり、望んでいないのに外に出て核家族となってしまうことがあります。「昔とは違う性能の良い大きすぎない家」に「昔ながらの多世帯」が同居することができ、リビングに自然と家族の会話が溢れる設計にしました。